



Keisuke Okuhara

奥原 啓輔

プラチナバイオ株式会社
代表取締役CEO

【会社所在地】〒739-0046 広島県東広島市鏡山三丁目10番23号

【事業紹介】産業利用に最適なゲノム編集技術「Platinum TALEN」とデジタル技術を融合し、事業パートナーの方々と革新的なプロダクト・サービスを提供します。



大学の研究成果を社会実装する、担い手に。

大学で培われてきた研究成果を世の中に出し、社会に役立てていくために最も重要なことは、「研究者と企業という、異なる立場のものの想いを汲み取り、理解し合える環境を整えること」だと考えています。その担い手となり、ゲノム編集技術を使って新しい価値を創造し、科学技術の価値を高めるのに貢献したいと考えています。

【PROFILE】

1977年生まれ
大阪生まれ、奈良育ち。バイオ研究者を志し大学院に進学するも挫折。研究者の道を断念し、科学技術振興機構(JST)に入構。数々の産学連携プロジェクトに携わった後、内閣官房・NBDC・東広島市を経て、2016年に広島大学・産学連携部門に着任。ゲノム編集のトップランナー・山本卓と共に、OPERA「ゲノム編集」産学共創コンソーシアムを構築・運営。2019年8月、「プラチナバイオ株式会社」を共同創業。

【創業年】2019年

産学共創プロジェクトのマネジメント業務に取り組む中で、研究成果の社会実装を加速する大学発ベンチャーの必要性を痛感し、文部科学省EDGEプログラム、JST社会還元加速プログラム(SCORE)、東京都Blockbuster TOKYOを通じて起業家となる。第25回ひろしまベンチャー助成金「ひろしまベンチャー育成賞・金賞」受賞。

【座右の銘】共創

会社の特徴

ゲノム編集でしか実現できなかった、新しい価値を。

産業利用に最適な「ゲノム編集技術」と、最先端デジタル技術「バイオDX」を駆使して、これまで実現できなかった、新しい価値を創出します。例えば、これまでの「ゲノム編集」産学共創コンソーシアムの取組みから生まれた大学の研究成果「低アレルギー卵」。食物アレルギーでも困らない未来に向けて、事業化を推進します。



▲「低アレルギー卵」の研究風景

事業・サービスの強み

オールジャパンの産学共創により、人類が直面する様々な社会課題を解決する。

オールジャパンの産学共創により、ゲノム編集とバイオDX技術の社会実装を加速させ、「SDGs 2番: 飢餓をゼロに」、「SDGs 3番: すべての人に健康と福祉を」、「SDGs 7番: エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「SDGs 9番: 産業と技術革新の基盤をつくろう」の達成に貢献します。



▲ゲノム編集による新たな価値創造